

編集後記

昨年の秋に柿崎さんよりこの「千里山会誌」の編集を引き継いでくれないかとの打診を受け、余り深く考えないで引き受けることにしました。

しかし、その後何人かの大先輩から「君はよく引き受けたね！大変だぞ！」といわれるうちに段々不安になり、今までの創刊号から昨年の第十号までの会誌を読み直してみました。

結果は、私の判断がいかに安易且つ無責任なものであったことが解りました。柿崎さんはよくぞこゝまで立派なものを作り続けてこられたものだ、実に千里山のことをよくご存知であり、さらに広い人脈をお持ちとただただ驚くばかりでした。

しかし、多くの方から次々と面白い企画が持ち込まれ、また、作品が送られてきました。その陰には柿崎さん・奥田さんの支援があり、編集にも深く関わっていただきました。そしてともかくこの第十一号の発刊に漕ぎ着けることが出来ました。

「千里山開発物語」が第十号で終わり、それに引き継

ぐシリーズものを探し、自ら「千里第二小学校ものがたり」を立ち上げましたが、いざフタを開ければ「千里山線の電車大特集」、「千里山時代の遊び」といったシリーズ物が続々現れ、次回以降も期待できます。それにしても皆様のアイデアの豊富さに驚かされました。

その他、今、高視聴率を続ける「篤姫」に関する話や、「タイの思い出」等、多方面にわたった寄稿文・歌・絵画等もいただきました。その他、寄稿以外に情報や励ましのお言葉もいただきました。本当に有難うございました。

さあ、これから次の第十二号の準備に入らなくてはなりません。この第十一号を見ていただくと解りますが、二七回生の私より若い方では、三一回生の杉山さんと三二回生の田代さんしかありません。若い方からのものをより期待します。どのようなものでも結構です。

次回の千里山会誌へのお願いをもちまして、私の最初の編集後記とさせていただきます。(萩原記)

お詫び 前号(十号)の訂正

- 一四頁 下段 後から4行目 連合伝↓聯合傳
 - 一八頁 上段 前から11行目 マンデー↓サーズデー
 - 一一頁 上段 後から4行目 大正14年↓大正15年
 - 一二頁 下段 後から2行目 東南↓西北
 - 一六頁 上段 後から9行目 十回生↓十一回生
 - 一三頁 上段 後から7行目 全 右
 - 一四頁 上段 前から1行目 ちころ↓ところ
- 会誌千里山 寄稿者一覧表 創刊号〜十号
- 一五頁 前から7行目 ご令姉↓ご令妹
 - 一六頁 前から7行目 孝夫↓久夫